

第5章

地域別構想

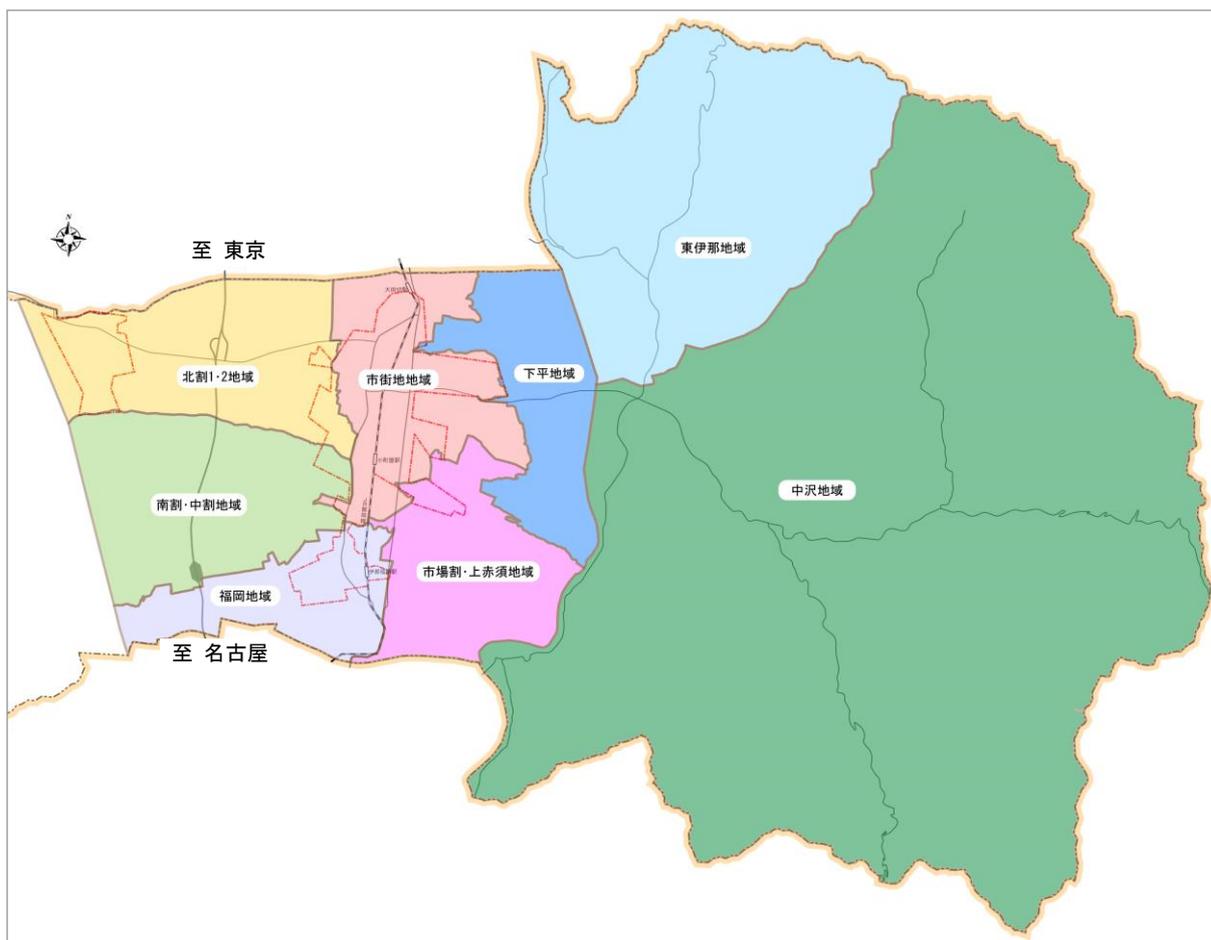


第1章 地域別構想

1. 地域区分

地域区分は、竜西地域の6つの地域に竜東地域の「東伊那地域」「中沢地域」を加えた8つの地域に区分し、その地域ごとに構想を整理します。

- ① 北割1・2地域：北割1、北割2
- ② 南割・中割地域：南割、中割
- ③ 市街地地域：小町屋、町1区～4区、上穂町
- ④ 市場割・上赤須地域：市場割、上赤須
- ⑤ 下平地域
- ⑥ 福岡地域
- ⑦ 東伊那地域
- ⑧ 中沢地域



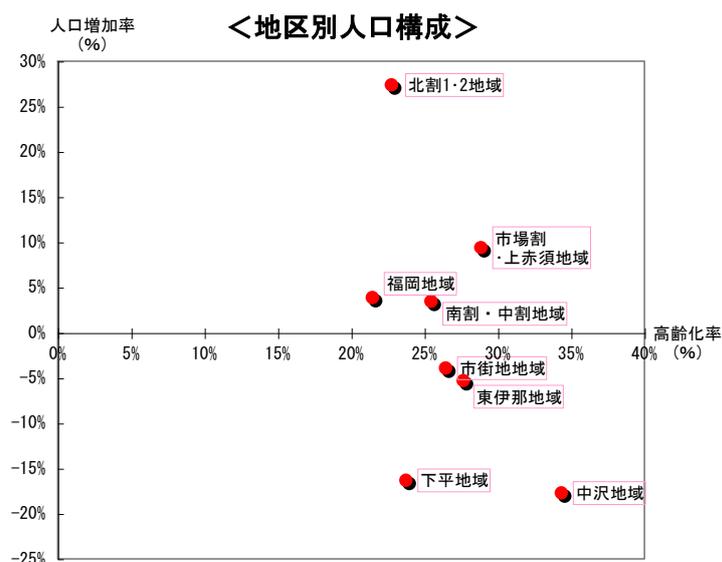
<地域区分図>

2. 地域別整備の方向性

2-1. 地域の発展性

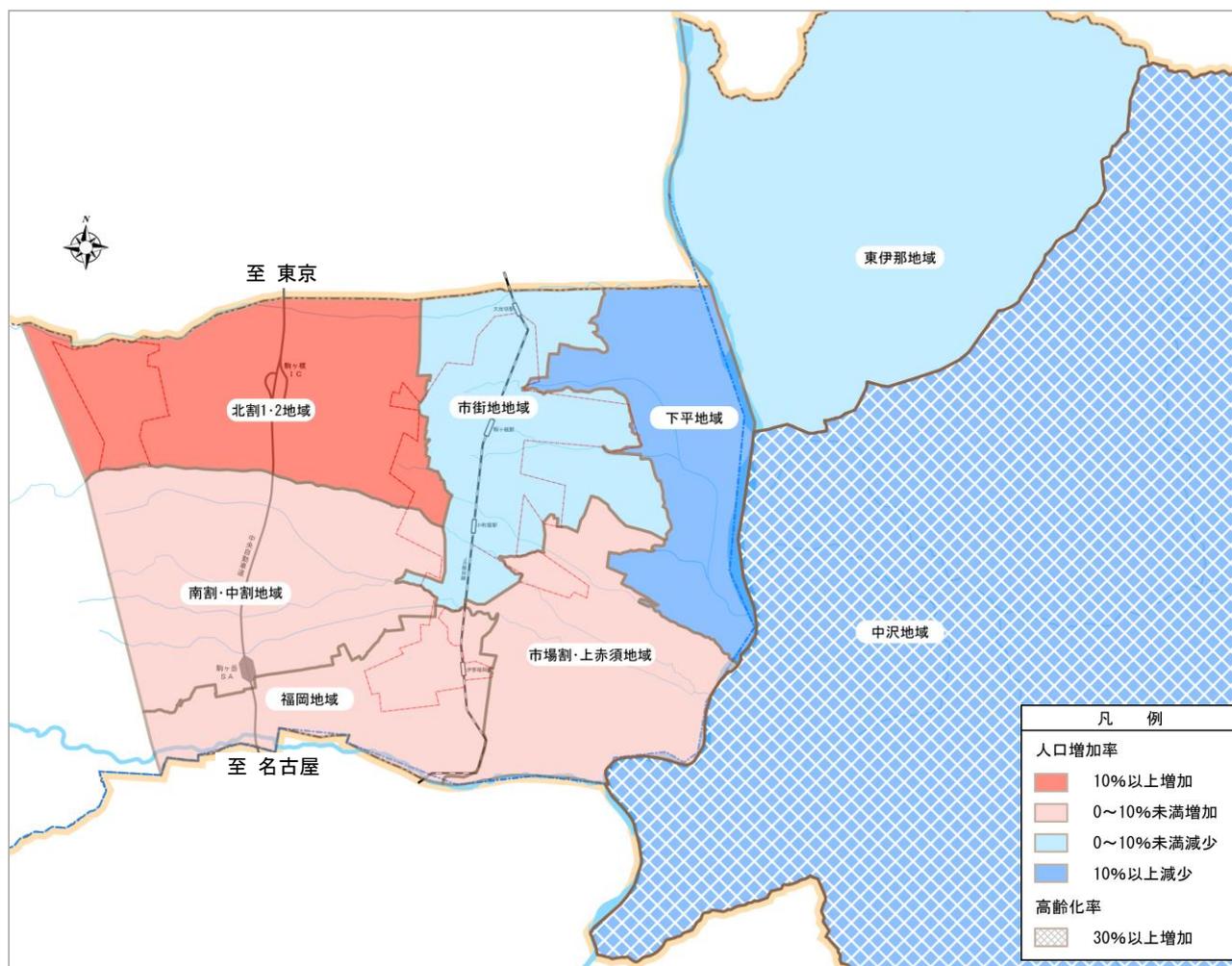
人口増減率、高齢化率からみた地域の特徴は以下のとおりです。

- ①市の西南部地域（北割1・2、南割・中割、福岡、市場割・上赤須）で人口増加、市街地地域、下平地域、東伊那地域、中沢地域で人口減少。
- ②北割1・2地域で25%を超える人口増加、下平地域、中沢地域で15%以上の人口減少。
- ③中沢地域は高齢化率が30%を超える。



これらより、地域の発展性を評価すると次のようになります。

- 発展性の高い地域(人口増加、低高齢化率(25%未満)) : 北割1・2地域、福岡地域
- 発展性に課題のある地域(人口10%以上減少) : 下平地域、中沢地域



<人口増加率×高齢化率>

2-2. 住民が望む地域の施策重要度

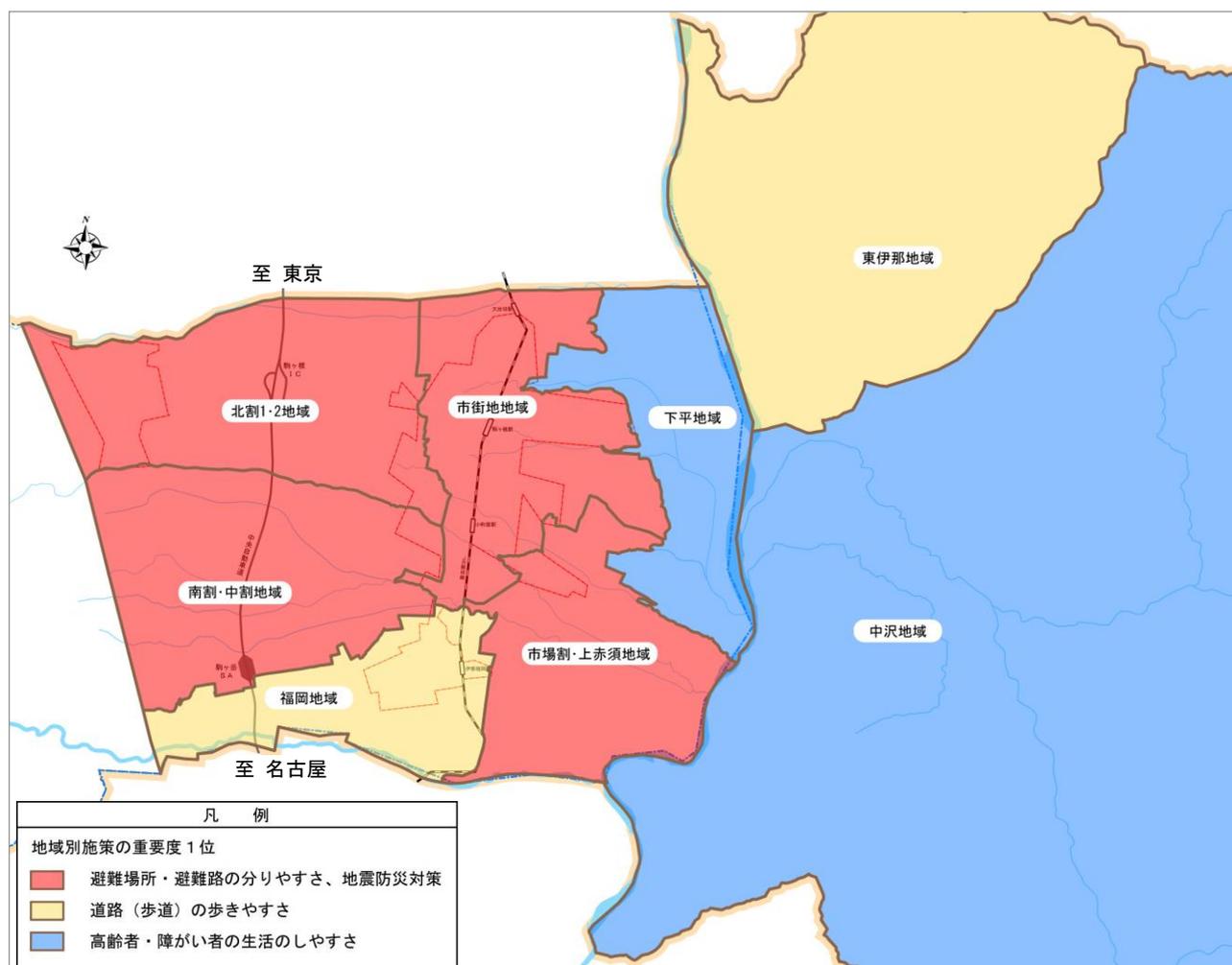
「住民アンケート」による住民が望む地域別の将来に向けた施策重要度の上位3項目を表に示しました。

これより、将来に向けた施策重要度から次のような地域特性がみられました。

- ① 竜西の4地域（北割1・2、南割・中割、市街地、市場割・上赤須）では、鼠川、上穂沢川、七面川による土砂災害危険区域の指定を反映し、自然災害への対策を最重要施策としています。

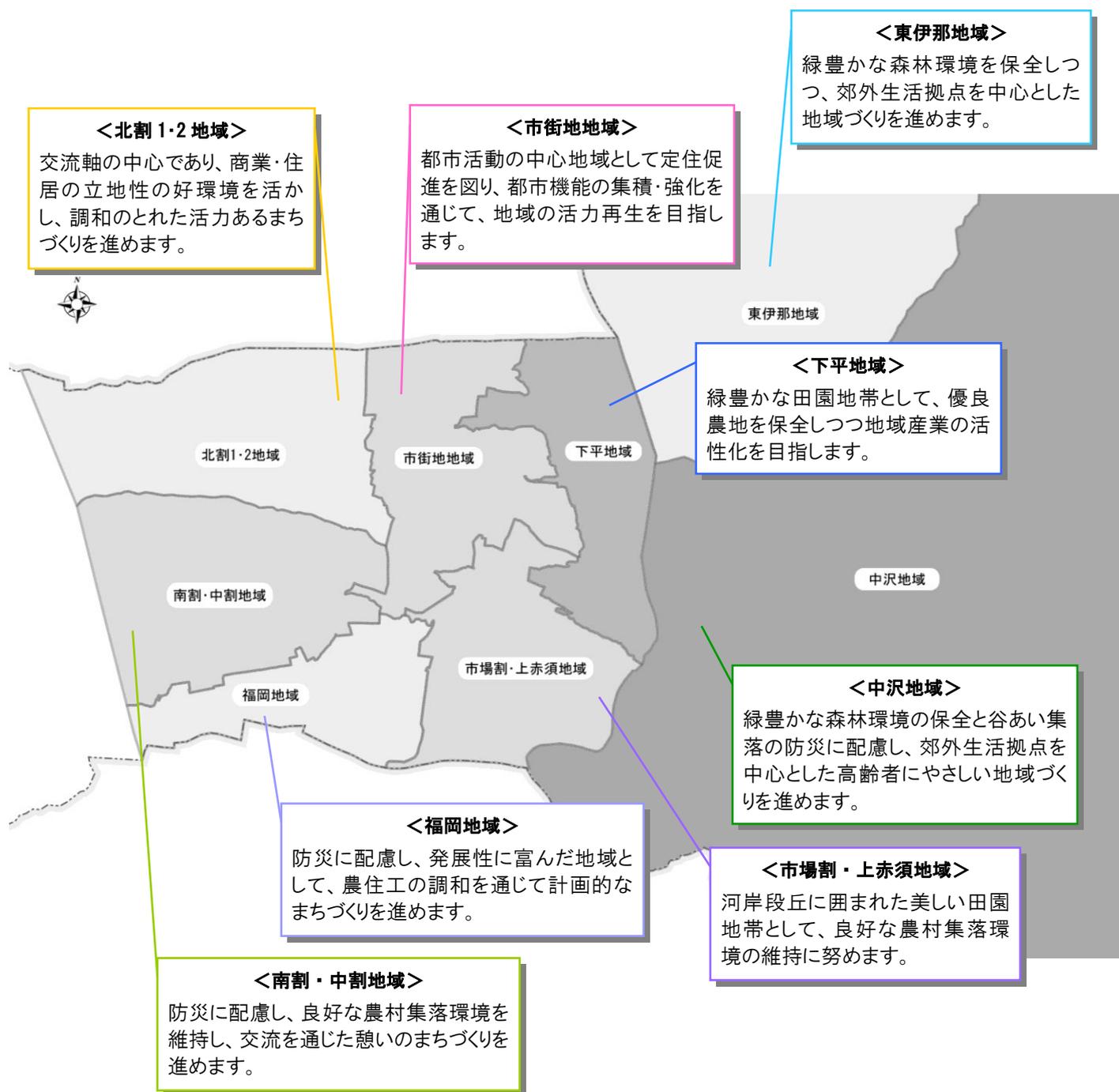
	重要度1位	重要度2位	重要度3位
北割1・2地域	避難場所・避難路の分かりやすさ	地震防災対策	高齢者・障がい者の生活のしやすさ
南割・中割地域	避難場所・避難路の分かりやすさ	地震防災対策	高齢者・障がい者の生活のしやすさ
福岡地域	道路(歩道)の歩きやすさ	ごみのリサイクル化などの取組	道路の通行しやすさ(自動車・バイク・自転車)
下平地域	高齢者・障がい者の生活のしやすさ	避難場所・避難路の分かりやすさ	道路の通行しやすさ(自動車・バイク・自転車)
市場割・上赤須地域	地震防災対策	避難場所・避難路の分かりやすさ	道路(歩道)の歩きやすさ
市街地地域	地震防災対策	避難場所・避難路の分かりやすさ	まちの防犯対策
東伊那地域	道路(歩道)の歩きやすさ	子育て環境の充実	避難場所・避難路の分かりやすさ
中沢地域	高齢者・障がい者の生活のしやすさ	幅員の狭い道路の整備	地震防災対策

- ② 下平、中沢地域では、人口が15%以上減少し、高齢化の進展を懸念して、高齢者、障がい者対策を最重要課題としています。
- ③ 福岡、東伊那地域では、歩道整備を最重要課題としています。



<地域別施策の重要度1位>

2-3. 地域の整備理念



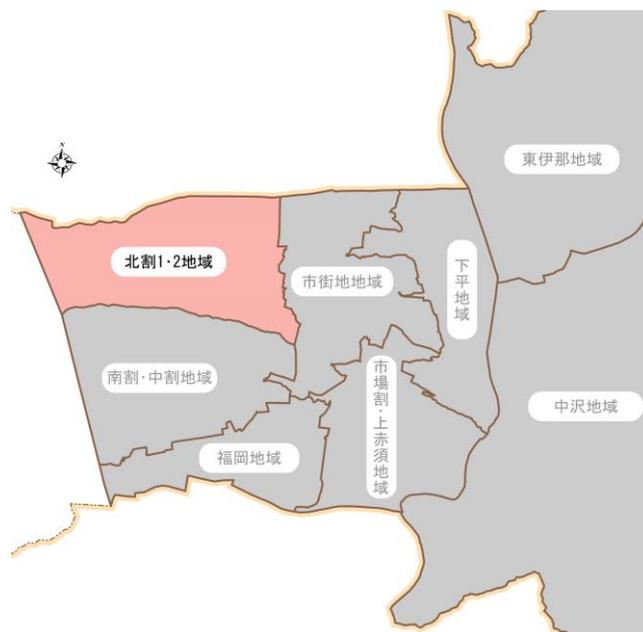
<地域別整備理念>

3. 北割 1・2 地域

3-1. 地域の現況と課題

市の北西部に位置し、地域の西側は、緩斜面、山林地域で、宮田村との境界には太田切川や河岸段丘があり、(主)駒ヶ根駒ヶ岳公園線沿線は、大規模店舗等沿道立地性施設の集積がみられません。駒ヶ根インターチェンジがあり、交通要衝の当地域は、建物立地ポテンシャルが高く、この5年間に人口が30%近く増加しており、無秩序な宅地化が進まないような規制・誘導が必要です。

地区の西側には、駒ヶ根公園があり、その先の駒ヶ根高原は閑静な別荘地であり、静穏な環境を保全し、観光の振興を図ることが課題となっています。

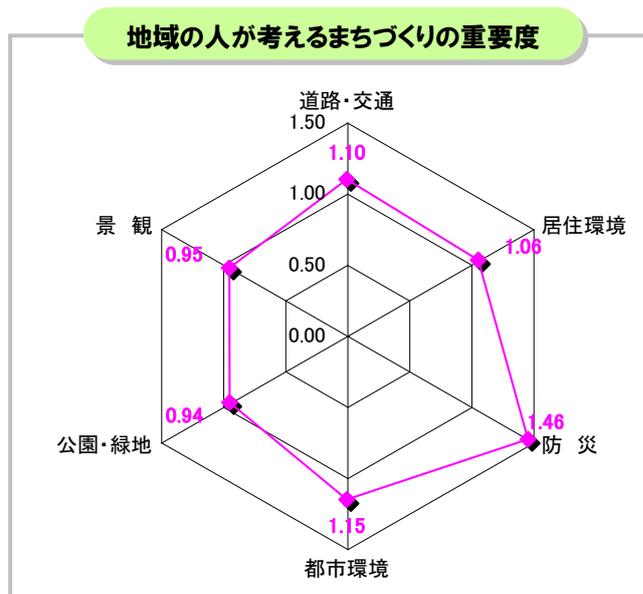


3-2. 地域の整備理念

交流軸の中心であり、商業・住居の立地性の好環境を活かし、調和のとれた活力あるまちづくりを進めます。

当地域には、中央自動車道駒ヶ根インターチェンジがあり、高速交通網を利用した本市の玄関口として機能し、アクセス路となる(主)駒ヶ根駒ヶ岳公園線沿線には、多くの商業施設が並び、にぎわいのある地域となっています。

地域の観光拠点である駒ヶ根公園一体の有効活用、また別荘地の静穏な環境保全に配慮し、無秩序な宅地化が進まないような規制と誘導を通じて調和のとれた活力あるまちづくりを進めます。

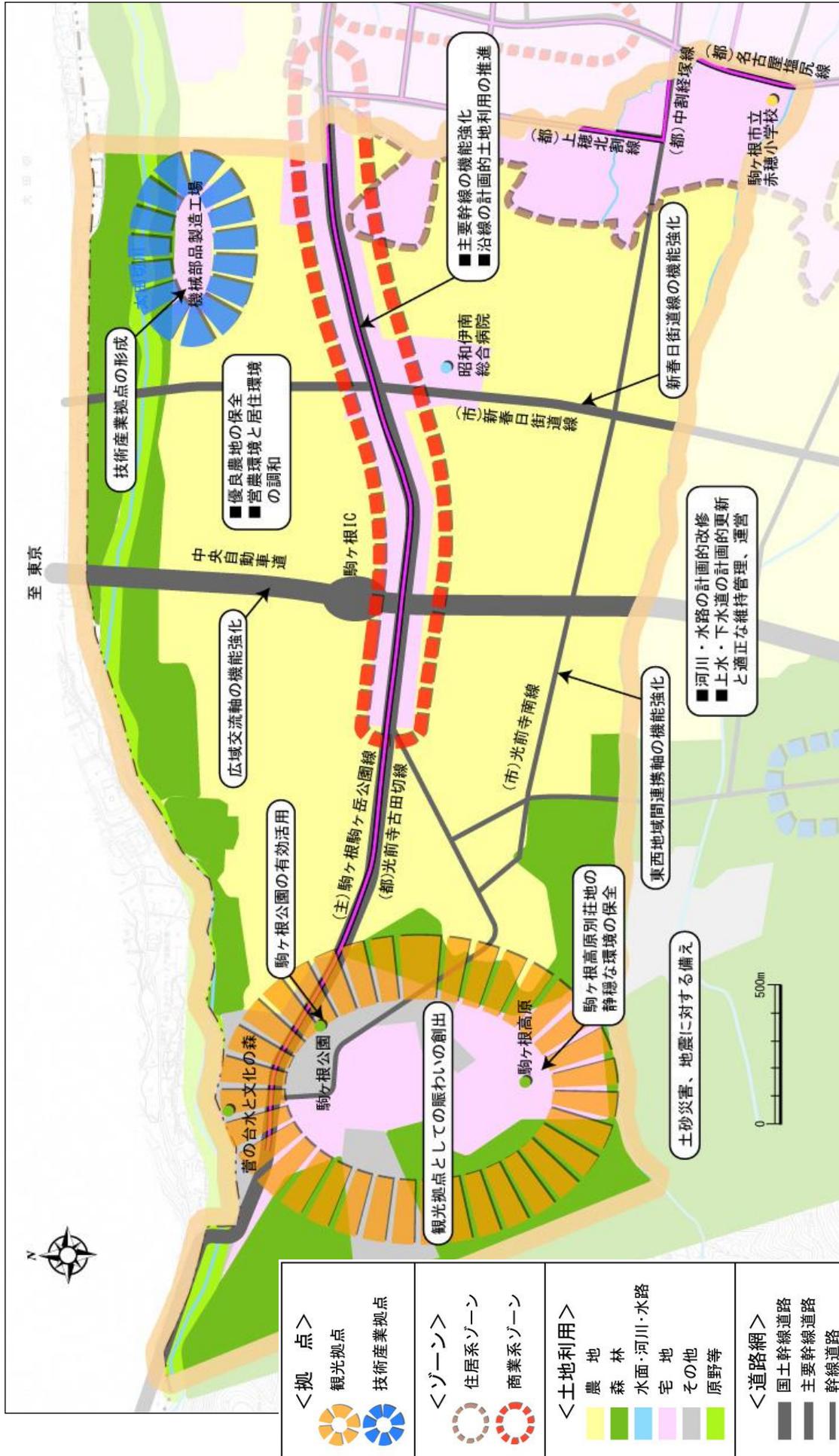


3-3. 地域整備の方針

地域整備の方針	
都市構造構築の方針	<p>■観光拠点 駒ヶ根公園は、駒ヶ根高原及び駒ヶ岳への玄関口としてシャトルバス乗り場や観光施設が集積する「観光拠点」です。観光地への重要な交通結節点としての機能強化と併せ、駒ヶ根公園一体の整備・保全に努めながらにぎわいの創出を進めます。</p> <p>■技術系産業拠点 機械部品製造工場のある地域は周辺の自然環境や農地との調和を図りつつ「技術系産業拠点」として機能集積及び強化を図ります。</p>
土地利用方針	<p>■駒ヶ根高原別荘地の静穏な環境の保全 駒ヶ根公園の別荘地は、自然と調和した低層住居専用地域の用途指定がなされ、静穏な居住環境の保全に努めます。</p> <p>■計画的住宅立地の誘導と規制 当該地域は人口増加率が高く、駒ヶ根公園を含む一帯は、「第2種住居地域」の用途指定がなされていますが白地地域も多い地区であるため、無秩序な建物立地を抑制し、計画的な住宅立地を進めます。</p> <p>■駒ヶ根インターアクセス道路沿線の計画的土地利用 駒ヶ根インターに通じる(主)駒ヶ根駒ヶ岳公園線沿線には、商業施設を始めとする沿道立地性施設が数多く立地しています。無秩序な施設立地を抑制し、計画的な土地利用を図ります。</p> <p>■優良農地の保全 地域内には集団的な優良農地が多くあり、これらを積極的に保全します。</p> <p>■営農環境と居住環境の調和 地域内には、住宅地が点在しています。白地地域も多く人口・宅地が増えていますが、営農環境と居住環境の調和を図ります。</p>
道路・交通整備の方針	<p>■広域連携軸の機能強化 中央自動車道 駒ヶ根インターチェンジがある中央自動車道を広域連携軸と位置づけ、単に自動車交通を処理するだけでなく、緊急輸送路など防災、災害復旧支援、リニア中央新幹線の新駅、三遠南信自動車道などへのアクセスなど多様な機能を有しており、その機能維持に努めます。</p> <p>■南北方向の幹線の機能強化 (市)新春日街道線の機能強化 中央自動車道に併走して、南北方向に縦貫する幹線として(市)新春日街道線があります。(市)新春日街道線は、交通需要も多いことから南北軸として機能強化を図ります。</p> <p>■主要幹線の機能強化 (主)駒ヶ根駒ヶ岳公園線を主要幹線と位置付け、中央自動車道駒ヶ根インターチェンジへのアクセスや、当該地域を含め、駒ヶ根市の北部を東西に横断する道路として機能強化を図ります。</p> <p>■東西の地域間連携軸の機能強化 (市)中割縦線の整備 当地域と中心市街地方面との東西の円滑な交通流動を確保するため、(市)中割縦線を整備して(都)中割経塚線と接続することによる道路ネットワークの強化を図ります。</p>

公園・上下水道等整備方針	<p>■駒ヶ根公園の有効活用 駒ヶ根公園は、総合公園として 16.0ha が開設され、市民や観光客に親しまれており、官民協働による維持管理に努めるとともに有効活用を図ります。</p> <p>■上下水道の適正な管理 上水道及び下水道（公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽）ともに概整及び整備済みです。今後は、「駒ヶ根市水道ビジョン」「水循環・資源循環のみち 2010」に基づき、安全、安心、安定した水の供給、上水道と下水道施設の計画的更新と適正な維持管理、施設の効率的な運営に努めます。</p> <p>■河川・水路の計画的な改修整備 河川・水路は、河川毎の特性と周辺の土地利用状況に応じた改修・保全に努めます。</p>
都市防災の構築方針	<p>■土砂災害に対する安全性確保 中央自動車道西側の傾斜地は、広く土石流による土砂災害警戒区域に指定されており、関連する河川の堤防強化、避難情報の伝達、避難訓練の実施等関係機関と連携を図り、災害に対する安全対策に努めます。</p> <p>■活断層に対する安全性対策 中央自動車道に併走するように木曾山脈山麓断層が走っており、同断層に起因する地震対策に努めます。</p>





<p><拠点></p> <p>観光拠点</p> <p>技術産業拠点</p>	<p><ゾーン></p> <p>住居系ゾーン</p> <p>商業系ゾーン</p>	<p><土地利用></p> <p>農地</p> <p>森林</p> <p>水面・河川・水路</p> <p>宅地</p> <p>その他</p> <p>原野等</p>	<p><道路網></p> <p>国土幹線道路</p> <p>主要幹線道路</p> <p>幹線道路</p> <p>補助幹線道路</p> <p>都市計画道路</p>
---	--	---	--

<地域別整備方針（北割1・2地域）>

4. 南割・中割地域

4-1. 地域の現況と課題

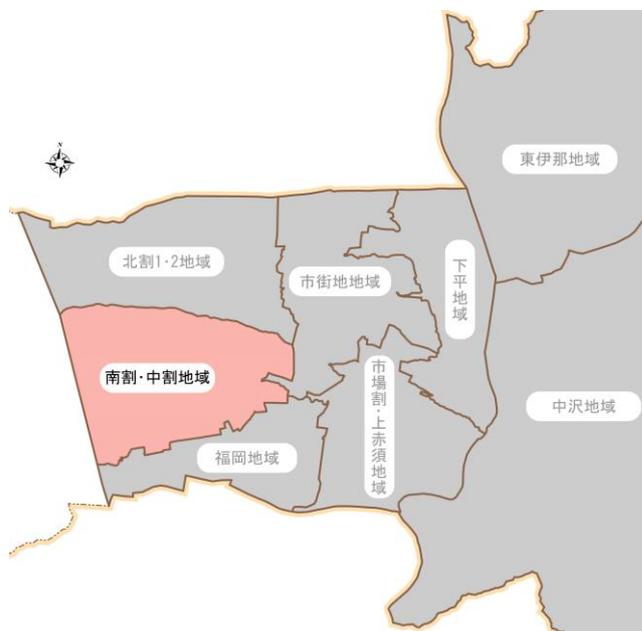
市の南部に位置し、地域は全体的に東西に傾斜した緩斜面となっており、中央道の西側はほとんどが山林です。

地域の中を、上穂沢川、如来寺川、鼠川が流れ、農業用水の確保と貴重な水辺空間を形成しています。

土地利用としては、郊外の田園地域として位置付けられますが、新築軒数も多く、人口は増加傾向にあります。集中的な立地ではなく、低密度な拡がりを見せています。

集落の周りにはまとまった優良農地もありますが、虫食いの的に宅地化が進んでいます。

地域南部には南原工業団地が立地し、地区公園として南割公園が整備されていますが、地域内に、身近な公園整備が望まれます。

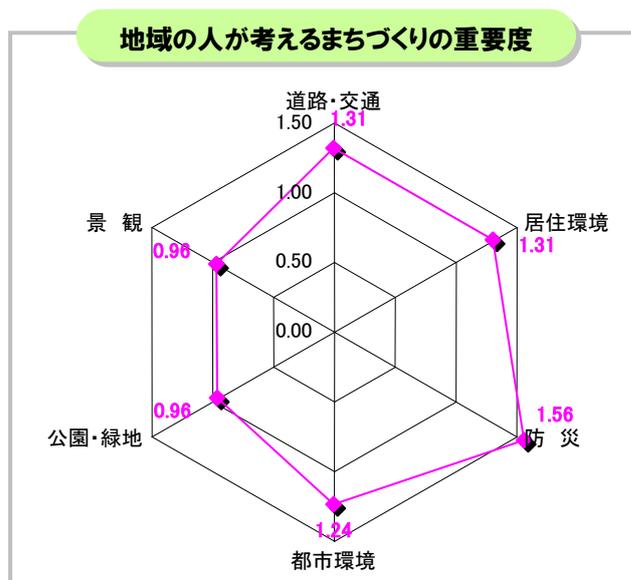


4-2. 地域の整備理念

防災に配慮し、良好な農村集落環境を維持し、交流を通じた憩いのまちづくりを進めます。

当地域の多くは、農地及び集落地です。人口はやや増えていますが住宅は地域内に低密度に分布し、農地が少しずつ減少しています。

このため、適切な土地利用の誘導を図り、まとまった優良農地の保全、営農環境、居住環境の維持につとめ、調和した都市づくりを目指します。併せて、中央自動車道西側の地域は土石流による土砂災害警戒区域に指定され、地域の最重要課題として防災対策に取り組みます。

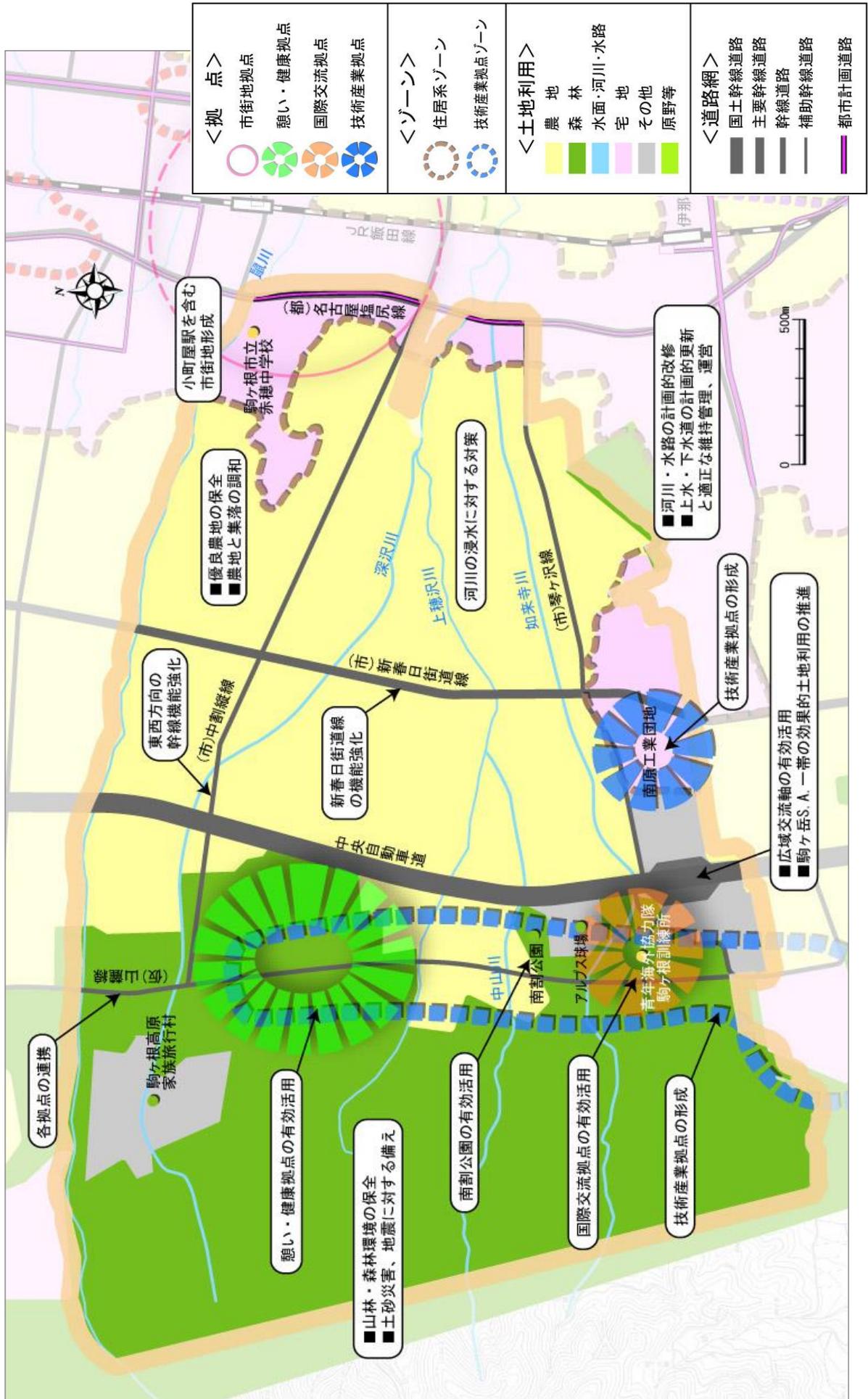


4-3. 地域整備の方針

地域整備の方針	
都市構造構築の方針	<p>■市街地拠点 小町屋駅を含む範囲を「市街地拠点」として位置付け、周辺地域を含めた生活、にぎわいの核として、都市機能の集積・強化に努め、定住促進を図ります。</p> <p>■技術産業拠点 中央自動車道西側地域一帯及び南原工業団地は、周辺の自然環境や農地との調和を図りつつ「技術産業拠点」として機能集積及び強化に努めます。</p> <p>■国際交流拠点 駒ヶ岳サービスエリア西側に「青年海外協力隊駒ヶ根訓練所」があり、「国際交流拠点」として一体的活用を図ります。</p> <p>■憩い・健康拠点 「駒ヶ根高原家族旅行村」南側の森林地域一帯を「憩い・健康拠点」として位置付け、健康増進・交流に利用できる拠点として整備を図ります。</p>
土地利用方針	<p>■山林・森林環境の保全 中央自動車道西側地域一帯の山林・森林は、美しい山並み景観と豊かな自然環境を形成し、これらの環境は次世代へ残す財産として積極的に保全します。</p> <p>■優良農地の保全 中央自動車道東側地域には、集団的な優良農地が多くあり、これらを積極的に保全します。</p> <p>■営農環境と居住環境の調和 地域内には、農地と住宅地が混在しています。人口・宅地化が増えており、営農環境と居住環境の調和を図ります。</p> <p>■大規模工場と住宅の調和 地域内には、南原工業団地が立地し、周辺には住宅や農地との混在がみられます。これら相互の環境に配慮し、調和のとれた土地利用を推進します。</p> <p>■駒ヶ岳サービスエリア一帯の効果的・計画的土地利用の推進 駒ヶ岳サービスエリア一帯は、スマートインターチェンジの設置と併せ、国際交流拠点に相応しい機能・施設を誘導し、効果的・計画的な土地利用の推進を図ります。</p>
道路・交通整備の方針	<p>■南北方向の幹線の機能強化（市）新春日街道線の機能強化 中央自動車道に併走して、南北方向に縦貫する幹線として(市)新春日街道線があります。新春日街道線は、交通需要も多いことから特に南北軸における歩行者の安全確保及び機能強化を図ります。</p> <p>■東西方向の補助幹線の計画（市）中割縦線、(仮)中通線先線の整備 地域の道路網体系を確立し、地域の東西を結び地域の生活交通を支える補助幹線として(市)中割縦線、(仮)中通線先線を計画し、(市)中割縦線については早期整備を図ります。</p> <p>■南北方向の幹線の計画（仮）山麓線 中央アルプス山麓に位置する各拠点の連携を図るため、(仮)山麓線を整備します。</p>

<p>公園・上下水道等整備方針</p>	<p>■南割公園の有効活用 南割公園は、地区公園として 6.8ha を開設、利用されています。 当公園は、青年海外協力隊駒ヶ根訓練所に隣接し、スポーツ・国際交流・憩いの場としての多様な活用が可能で、官民協働による維持管理に努めるとともに有効活用を図ります。</p> <p>■上下水道の適正な管理 上水道及び下水道(公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽)は一部地域を除き整備済みです。今後は、「駒ヶ根市水道ビジョン」「水循環・資源循環のみち 2010」に基づき、安全、安心、安定した水の供給、上水道と下水道施設の計画的更新と適正な維持管理、施設の効率的な運営に努めます。</p> <p>■河川・水路の計画的な改修整備 河川・水路は、河川毎の特性と周辺の土地利用状況に応じた改修・保全に努めます。</p>
<p>都市防災の構築方針</p>	<p>■土砂災害に対する安全性確保 中央自動車道西側の傾斜地は、ほとんどが鼠川、深沢川、上穂沢川、中山川の土石流による土砂災害警戒区域に指定され、河川の堤防強化を含め、避難情報の伝達、避難訓練の実施等関係機関と連携を図り、災害に対する安全対策に努めます。</p> <p>■河川の浸水に対する対策 鼠川、上穂沢川沿線には、氾濫による浸水想定区域が指定され、氾濫防止のための河川対策、災害発生時の対策等に努めます。</p> <p>■活断層に対する備えの必要性 中央自動車道に併走するように木曾山脈山麓断層が走っており、同断層に起因する地震対策に努めます。</p>





5. 市街地地域

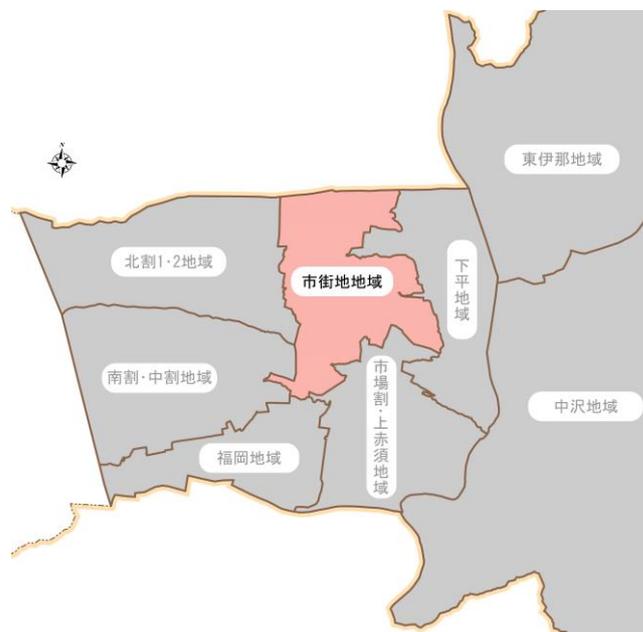
5-1. 地域の現況と課題

当地域は、駒ヶ根駅、小町屋駅、国道 153 号を中心とした本市の都市活動の拠点であり、地域のほとんどに用途地域が指定されています。

人口はこの 5 年間で 5% 程度の減少で、いわゆる中心市街地の空洞化として大きな課題となっています。

土地利用は、地域のほとんどが用途地域に指定され、駒ヶ根駅周辺が商業地域、国道 153 号、同バイパスの沿道の一部に近隣商業の用途指定がなされています。

その周辺は住居地域で、用途地域の外側は農地、農村集落地域となっています。また、(主)駒ヶ根長谷線の北側には、飯坂工業団地があり、準工業、工業、工業専用地域の工業系用途が指定されています。



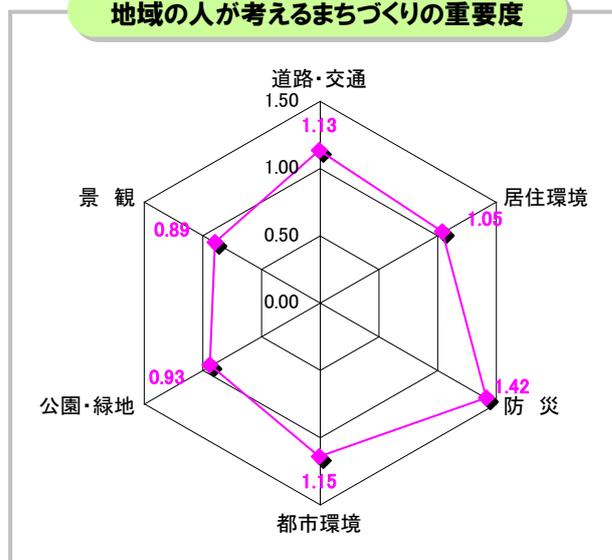
5-2. 地域の整備理念

都市活動の中心地域として定住促進を図り、都市機能の集積・強化を通じて、地域の活力再生を目指します。

この 5 年間で人口が 5% 程度減少し、中心市街地の空洞化が危惧されています。

少子高齢化の進展と人口減少社会の到来を迎え、郊外に拡散しつつある都市機能を中心市街地に集積する市街地の再編を進め、まちなかにおける定住人口の増加、商店街を中心とした賑わいを創出する都市づくりを進めます。

地域の人が考えるまちづくりの重要度



5-3. 地域整備の方針

地域整備の方針	
都市構造構築の方針	<p>■ 中心市街地拠点 駒ヶ根駅を含む範囲を「中心市街地拠点」として位置付けます。「集約型都市構造」でコンパクトな都市として再構築に努め、都市機能の集積・強化を図り、安全安心で快適に暮らせるまちづくりを推進し、市民や観光客の流入による活力と賑わいの創出を図ります。</p> <p>■ 市街地拠点 小町屋駅を含む範囲を「市街地拠点」として位置付け、周辺地域を含めた生活、にぎわいの核として、都市機能の集積・強化に努め、定住促進を図ります。</p> <p>■ 技術産業拠点 北の原工業団地、飯坂工業団地を「技術産業拠点」と位置づけ、周辺の居住環境に配慮しつつ、産業機能の集積及び強化に努めます。</p>
土地利用方針	<p>■ 中心商業地の活力再生 JR駒ヶ根駅周辺の既存商業地を「商業系ゾーン」と位置づけ、民間事業者による商業施設等の集約、歩行区間のメリットを十分活用した、楽しみながら回遊できる環境を構築し、賑わいの再生を図ります。</p> <p>■ 幹線道路沿線の計画的土地利用 国道153号伊南バイパス沿線、(主)駒ヶ根駒ヶ岳公園線沿線は、郊外型商業施設が集積する新たな「商業系ゾーン」を形成しています。引き続き計画的な土地利用の誘導を図り、賑わいづくりに努めます。</p> <p>■ 用途地域内の定住促進 用途地域内の空き地・空き家等を有効活用し、福祉施設や子育て支援施設の集積や住宅供給に努め、定住促進を図ります。</p>
道路・交通整備の方針	<p>■ 幹線機能の強化 当地域は駒ヶ根市の中心部に位置し、道路網の多く交差する要衝地です。国道153号及び国道153号伊南バイパスを南北を連携する幹線として機能強化を図ります。また、(主)駒ヶ根駒ヶ岳公園線、(主)駒ヶ根長谷線、(都)中割経塚線は東西を連携する幹線及び拠点間を連携するため機能強化を図ります。</p> <p>■ 都市計画道路の計画的整備 「駒ヶ根市道路整備プログラム」「都市計画道路の見直し」に基づき、幹線道路網体系の構築に必要な都市計画道路の変更及び計画的整備を進めます。</p> <p>■ 中心市街地内の歩行環境の整備 中心市街地は、歩いて生活、回遊できる歩行環境の整備を図ります。</p> <p>■ 安全・安心な生活道路の整備 生活道路の多くは狭隘な道路で、小・中学校周辺の道路、主要施設へのアクセス路等については、歩行者が安心して通行できるよう安全対策に努めます。</p> <p>■ 駒ヶ根駅前広場の機能強化 駒ヶ根駅前広場は、交通結節点機能に加え都市拠点として必要な機能を設けるため「駒ヶ根駅前広場計画」を策定し、必要な機能強化を図ります。</p>

<p>公園・上下水道等整備方針</p>	<p>■既設の公園の適正な維持管理と有効活用 当地域には、2つの近隣公園(すずらん公園、北の原公園)と7つの街区公園(ふじやま公園、アルプス公園、栄町公園、三和森公園、飯坂公園、飯坂東公園、駅北公園)があり、憩いの場、避難場所として利用されています。今後とも官民協働による維持管理に努めるとともに有効活用します。</p> <p>■上下水道の適正な管理 上水道及び下水道(公共下水道)ともに概整済みです。今後は、「駒ヶ根市水道ビジョン」「水循環・資源循環のみち 2010」に基づき、安全、安心、安定した水の供給、上水道と下水道施設の計画的更新と適正な維持管理、施設の効率的な運営に努めます。</p>
<p>都市防災の構築方針</p>	<p>■河川沿岸周辺の浸水対策 当地域を流れる古田切川、精進川、田沢川、七面川沿岸部には、浸水想定区域が指定されています。それらの河川の浸水防止対策など安全対策に努めます。</p>





<拠点>	<ゾーン>	<土地利用>	<道路網>
中心市街地拠点	住居系ゾーン	農地	国土幹線道路
市街地拠点	商業系ゾーン	森林	主要幹線道路
技術産業拠点		水面・河川・水路	幹線道路
		宅地	補助幹線道路
		その他	都市計画道路
		原野等	

<地域別整備方針（市街地地域）>

6. 市場割・上赤須地域

6-1. 地域の現況と課題

当地域は、竜西地域の東南部に位置し、地域一帯が河岸段丘により囲まれた美しい田園地帯です。

人口はこの5年間で10%程度の増加がみられ、用途地域およびその周辺の白地地域に分散的に住宅立地が進んでいます。

土地利用としては、特に集約化された住居地区はなく、美しい田園の中に基礎集落があるという状況です。地域の北部には、一部用途地域が指定され、美里団地、向ヶ丘団地等の住宅団地があり、住宅が点在しています。

地域の西側を国道153号伊南バイパスが走り、沿道の一部に建物立地がみられます。

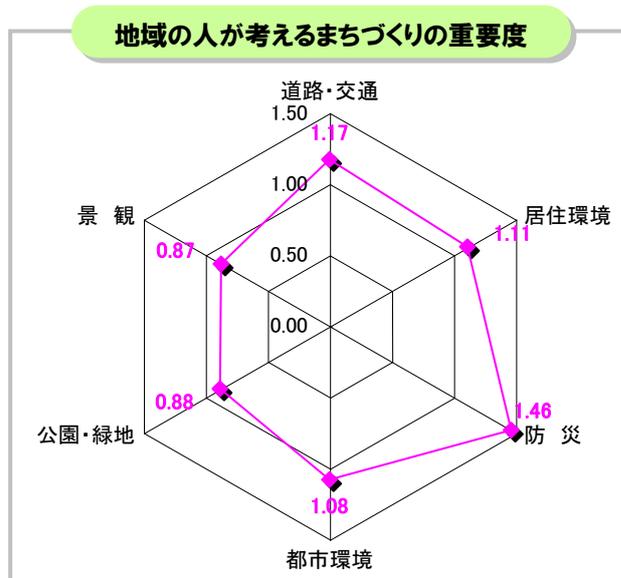


6-2. 地域の整備理念

河岸段丘に囲まれた美しい田園地帯として、良好な農村集落環境の維持に努めます。

当地域は、地域一帯が河岸段丘に囲まれた美しい田園地帯で、その中に集落が点在しています。

この5年間で10%程度の人口増加があり、用途地域およびその周辺の白地地域に住宅が立地し、土地利用の規制と誘導を通じて、良好な集落環境を維持したまちづくりを進めます。



6-3. 地域整備の方針

地域整備の方針	
都市構造構築の方針	<p>■市街地拠点 国道 153 号伊南バイパスの沿道の一部を伊那福岡駅を含む範囲を「市街地拠点」として位置付けます。当該拠点内の居住環境整備を行うと共に、都市機能の集約・誘導を図ります。</p>
土地利用方針	<p>■周辺を取り囲む河岸段丘の保全 当地域の周囲を取り巻く河岸段丘は、当地域固有の地形と美しい景観要素で、この美しい自然環境を保全します。</p> <p>■集团的優良農地の保全 当地域内には、集团的な優良農地が多くありこれらを積極的に保全します。</p> <p>■営農環境と居住環境の調和 地域内には、農地と住宅地が混在しているところがあります。これらにあつては、営農環境と居住環境を維持するとともに相互の調和を図ります。</p> <p>■国道 153 号伊南バイパス沿道の計画的活用 小町屋駅東側の伊南バイパス沿線は、郊外型の商業施設並んでおり「商業系ゾーン」と位置づけ、計画的土地利用につとめ、賑わいづくりを進めます。 また、伊那福岡東側の伊南バイパス沿線を「沿道サービス型業務ゾーン」として位置づけ、周辺環境と調和しながら計画的に沿道サービス型施設の誘致を図ります。</p>
道路・交通整備の方針	<p>■南北方向の幹線の機能強化 国道 153 号伊南バイパスの全線供用 伊南バイパスは、国道 153 号のバイパスとして計画され、一部暫定供用している道路です。南北軸として機能を強化するため、未整備区間の早期整備を図り、全線供用及び 4 車化を目指します。</p> <p>■東西方向の幹線の機能強化 (市)吉瀬本線の機能強化 当地域を東西に結ぶ幹線として(市)吉瀬本線を位置づけ、歩道設置等による安全確保にとともに幹線機能の強化を図ります。</p> <p>■地域内生活道路の安全性確保 赤穂高校周辺や住宅地内について、生活交通の円滑な誘導と歩行者通行等を配慮した安全対策を図ります。</p>
公園・上下水道等整備の方針	<p>■既存公園の有効活用 向ヶ丘公園は、近隣住民の憩いの場、災害時の避難場所として利用しており、今後も官民協働による維持管理に努めながら有効活用します。</p> <p>■上下水道の適正な管理 上水道及び下水道(公共下水道(宮の北地区を除く)、農業集落排水、合併浄化槽(一部を除く))ともに概整済みです。今後は、「駒ヶ根市水道ビジョン」「水循環・資源循環のみち 2010」に基づき、安全、安心、安定した水の供給、上水道と下水道施設の計画的更新と適正な維持管理、施設の効率的な運営に努めます。</p>
都市防災の構築の方針	<p>■鼠川、上穂沢川の浸水対策 当地域には、鼠川、上穂沢川沿岸周辺に広く浸水想定区域が指定されています。これらの区域の安全性を確保するため浸水対策を強化します。</p>



<拠点>	<土地利用>	<道路網>
○ 市街地拠点	■ 農地	■ 国土幹線道路
<ゾーン>	■ 森林	■ 主要幹線道路
○ 住居系ゾーン	■ 水面・河川・水路	■ 幹線道路
○ 商業系ゾーン	■ 宅地	■ 補助幹線道路
○ 沿道サービス型業務ゾーン	■ その他	■ 都市計画道路
	■ 原野等	

<地域別整備方針（市場割・上赤須地域）>

7. 下平地域

7-1. 地域の現況と課題

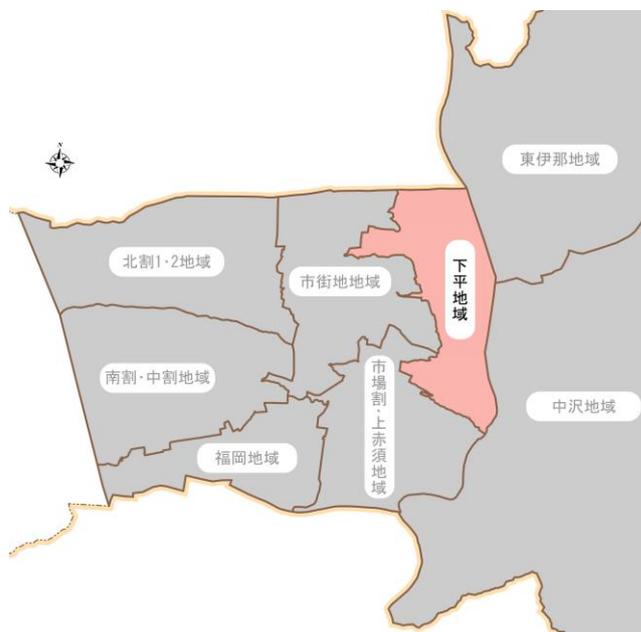
当地域は、竜西地域の東北端に位置し、天竜川に沿って広がる平坦な地域ですが、河岸段丘により市街地より一段下がった地域です。

人口はこの5年間で15%強の減少で過疎化が進んでいますが、高齢化率は25%弱で、市の中でも高齢化率が低い地域です。

土地利用としては、地域一帯が圃場整備された優良農地が広がる緑豊かな地域です。

住宅は、(主)駒ヶ根長谷線、(市)古田切線、(市)下街道本線沿いに立地し、大きな集落はありませんが、基礎集落が地域内に分散的に配置されています。

また、地域内には大田原工業団地と上の原工業団地があります。

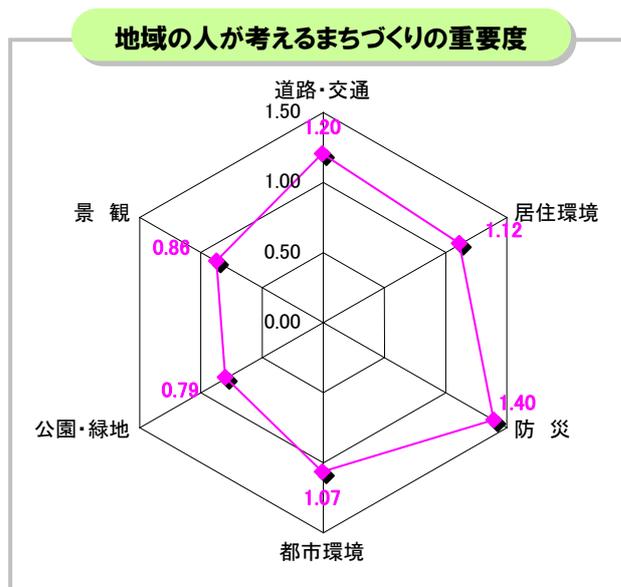


7-2. 地域の整備理念

緑豊かな田園地帯として、優良農地を保全しつつ地域産業の活性化を目指します。

天竜川の河岸段丘で、優良農地の多い緑豊かな田園地域です。

中心市街地の東側で天竜川右岸に位置し用途地域のかからない地域であり、市街地の拡散を抑制し、緑豊かな農地の保全に努め、良好な自然と居住環境の調和した都市づくりを進めます。



7-3. 地域整備の方針

地域整備の方針	
都市構造構築の方針	<p>■技術産業拠点 大田原工業団地、下平工業団地、上の原工業団地は、周辺の環境との調和を図りつつ「技術産業拠点」として位置付け、機能集積及び強化を図ります。</p>
土地利用方針	<p>■恵まれた自然環境の保全 当地域は、河岸段丘と天竜川に挟まれ、農地が広がる緑豊かな地域で、この恵まれた自然環境の保全に努めます。</p> <p>■優良農地の保全 当地域に広がる圃場整備された優良農地を積極的に保全します。</p> <p>■営農環境と居住環境の調和 地域内の農地と住宅地について、営農環境と居住環境を維持するとともに相互の調和を図ります。</p> <p>■医療・福祉施設周辺環境の保全 当地域には、西駒郷、長野県こころの医療センター駒ヶ根が集積しています。周辺環境の保全を図り、心身のケアを支援する静穏な環境を維持します。</p>
道路・交通整備の方針	<p>■東西方向の幹線の機能強化 (主)駒ヶ根長谷線、(市)古田切線 地域の東西方向の交通を結ぶ幹線として(主)駒ヶ根長谷線と(市)古田切線があり、当該地域及び天竜川対岸の竜東地域を結び円滑な交通を誘導するため機能強化を図ります。</p> <p>■地域、拠点間連携の機能強化 (市)小鍛冶線、(市)下街道本線 地域内の連携及び技術産業拠点を結ぶ道路として、(市)小鍛冶線、(市)下街道本線の機能強化を図ります。</p> <p>■地域内生活道路の機能強化 地域内、住宅地内に位置する生活道路は、生活交通の円滑な誘導と歩行者通行等を配慮した安全対策を図ります。</p>

<p>公園・上下水道等整備方針</p>	<p>■下平公園、丸塚公園、かつばの池の有効活用 当地域内には、下平公園、丸塚緑地(都市緑地)、かつばの池があります。官民協働による維持管理に努めるとともに地域住民の憩いの場として有効活用を図ります。</p> <p>■上下水道の適正な管理 上水道及び下水道(公共下水道(下平工業団地、上野原工業団地を除く))ともに概整済みです。今後は、「駒ヶ根市水道ビジョン」「水循環・資源循環のみち 2010」に基づき、安全、安心、安定した水の供給、上水道と下水道施設の計画的更新と適正な維持管理、施設の効率的な運営に努めます。</p>
<p>都市防災の構築方針</p>	<p>■天竜川による浸水対策 河岸段丘と天竜川、(主)駒ヶ根長谷線に挟まれた地区南部の三角地帯は、天竜川による浸水想定区域に指定されています。このため天竜川の堤防強化を進めるとともに、災害発生時の避難情報等、ソフト対策に努めます。</p>





<拠点>	<土地利用>	<道路網>
○ 中心市街地拠点	■ 農地	■ 国土幹線道路
⊙ 技術産業拠点	■ 森林	■ 主要幹線道路
	■ 水面・河川・水路	■ 幹線道路
	■ 宅地	■ 補助幹線道路
	■ その他	■ 都市計画道路
	■ 原野等	

<地域別整備方針（下平地域）>

8. 福岡地域

8-1. 地域の現況と課題

当地域は、市の南部に位置し、飯島町と接し、地域の周囲を河岸段丘林が覆っており、良好な自然や景観が見られる地域です。

当地域は、5年前との比較で人口が5%弱増加している上、高齢化率が22%と市内で最も低く、発展性に富んだ地域といえます。

土地利用としては、地区東部は用途地域が指定され、伊那福岡駅周辺や馬見塚住宅団地等の既成市街地が形成され、近年、新春日街道線沿線に住宅立地が多く、市街地が用途外に拡大しつつあります。

地域内には、馬住ヶ原工業団地が飯島町との境に立地しているほか、南原工業団地や比較的規模の大きい工場が点在しており、住農工混在が見受けられます。

地域内には、馬見塚公園や馬住ヶ原公園があり、緑に恵まれた地域といえます。



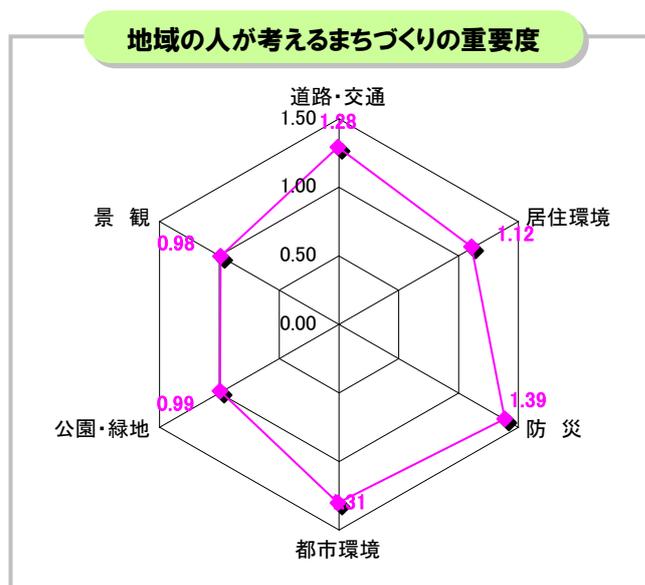
8-2. 地域の整備理念

防災に配慮し、発展性に富んだ地域として、農住工の調和を通じて計画的なまちづくりを進めます。

当地域は人口が増加し、市内で最も低い高齢化率の人口構造で、発展性に富んだ地域です。

伊那福岡駅を中心とした都市的土地利用の推進、および駒ヶ岳サービスエリア周辺の開発、点在する農村集落の環境整備等、農・住・工の調和を通じて、計画的なまちづくりを進めます。

併せて、中央自動車道西側の地域は土石流による土砂災害警戒区域に指定され、地域の最重要課題として防災対策に取り組みます。



8-3. 地域整備の方針

地域整備の方針	
都市構造構築の方針	<p>■市街地拠点 JR飯田線伊那福岡駅を含む範囲を「市街地拠点」として位置付けます。当該拠点内の居住環境整備を行うと共に、都市機能の集約・誘導を図ります。</p> <p>■憩い・健康拠点 中央自動車道西側にある健康飲料生産工場一帯は、中田切川の河岸段丘林、西側の傾斜地に囲まれた緑豊かな環境にあり、「憩い・健康拠点」と位置付けます。森林セラピー、クリーンな健康産業、産学官連携を通じて、健康長寿なまちづくりを図ります。</p> <p>■技術産業拠点 電機、機械を中心とした高度技術産業などが立地する、馬住ヶ原工業団地及び大規模工場の周辺を「技術産業拠点」として位置付け産業基盤の強化を図ります。</p>
土地利用方針	<p>■豊かな自然の保全 中田切川の河岸段丘や平地林があり、これらの緑豊かな自然環境の保全に努めます。</p> <p>■無秩序な市街地の拡大抑制 人口が増加する地域として、用途地域外の(市)新春日街道沿道に多くの建物立地がみられ、用途地域内への居住を推進するとともに、無秩序な市街地の拡大を抑制します。</p> <p>■大規模工場と住宅の調和 地域内には、馬住ヶ原工業団地の他、比較的規模の大きな工場が立地し、住宅との混在がみられます。これら相互の建物立地に配慮し、調和のとれた土地利用を推進します。</p> <p>■国道153号伊南バイパス沿線の計画的活用 伊那福岡駅東側の伊南バイパス沿線を「沿道サービス型業務ゾーン」として位置づけ、周辺環境と調和しながら計画的に沿道サービス型施設の誘致を図ります。</p>
道路・交通整備の方針	<p>■南北方向の幹線の機能強化 (市)新春日街道線の機能強化 中央自動車道に併走して、幹線としての(市)新春日街道線が当該地域を南北に縦貫しています。(市)新春日街道線は、交通需要も多いことから南北軸として機能を強化します。</p> <p>■東西方向の幹線の機能強化 (市)馬見塚線の機能強化 地域内を東西に結ぶ幹線の(市)馬見塚線は、十分な歩道が設置されておらず、歩行者の安全性確保、観光交流拠点・新規開発の支援などを図るため機能を強化します。</p>

公園・上下水道等整備方針	<p>■馬見塚公園、十二天の森、馬住ヶ原公園の保全・活用 地域内にあるこれらの公園は、近隣公園として整備が完了し、当地域を含めた周辺地域から広く利用されています。今後も官民協働により維持・保全と併せ、積極的な活用を推進します。</p> <p>■上下水道の適正な管理 上水道及び下水道(公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽(一部を除き))ともに概整済みです。今後は、「駒ヶ根市水道ビジョン」「水循環・資源循環のみち 2010」に基づき、安全、安心、安定した水の供給、上水道と下水道施設の計画的更新と適正な維持管理、施設の効率的な運営に努めます。</p>
都市防災の構築方針	<p>■土砂災害に対する安全性確保 中央自動車道西側一帯は、土石流による土砂災害警戒区域に指定されており、沢筋の土石流防止対策や災害発生時の避難対策等関係機関と連携を図り、土砂災害に対する安全対策に努めます。</p> <p>■活断層に対する安全性確保 中央自動車道に併走するように木曾山脈山麓断層が走っており、同断層に起因する地震対策に努めます。</p>



9. 東伊那地域

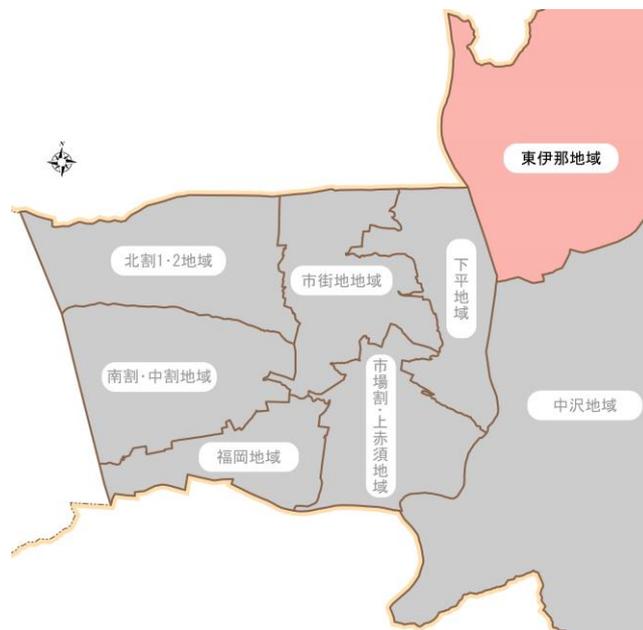
9-1. 地域の現況と課題

当地域は、竜東地域の北側に位置し、天竜川に近い傾斜地に集落が点在し、地域の半分以上は山林です。

人口は5年前から5%程度の減少で、高齢化率は約27%です。

土地利用としては、(主)伊那生田飯田線、(県)栗林宮田停車場線沿線に集落が点在し、両道路が交差する一帯が、地域の中心として公共施設等が集中しています。

天竜川と河岸段丘に挟まれた地区に優良農地が分布しています。その周辺は山林となっています。

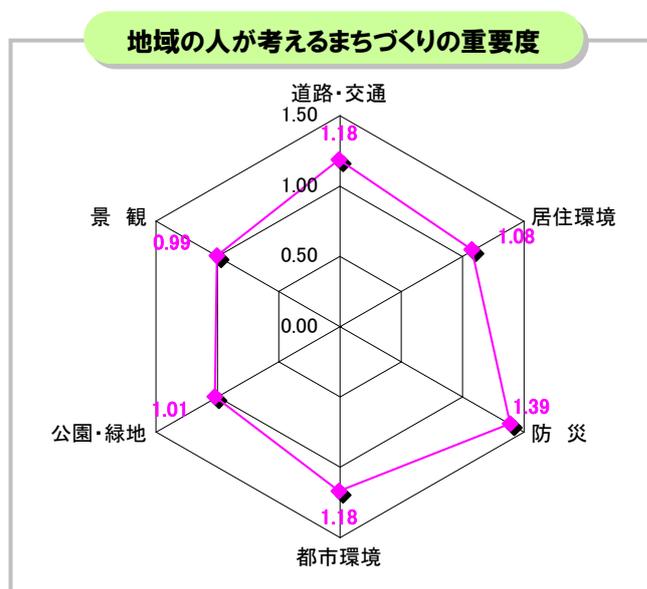


9-2. 地域の整備理念

緑豊かな森林環境を保全しつつ、郊外生活拠点を中心とした地域づくりを進めます。

地域の半分以上が緑豊かな森林・山林で、これらの森林環境は積極的に保全します。

天竜川を挟んだ竜東地域の生活拠点として東伊那支所周辺に都市機能を確保・維持しつつ、緑豊かな里山環境を保全し、共存共生できる都市づくりを進めます。



なお、当地域は都市計画区域外の地域ですが、ある一定の人口が集積している地区があり、過疎化や集約型都市構造の構築に基づくコンパクトな市街地の形成などの観点から、今後、都市計画区域についての検討が期待されます。

9-3. 地域整備の方針

地域整備の方針	
都市構造構築の方針	<p>■観光拠点 駒ヶ根シルクミュージアム、ふるさとの丘周辺は、観光施設があり高台の眺望景観に優れた「観光拠点」と位置づけ、駒ヶ根高原や中心市街地とともに市内の観光拠点として観光客の誘客に努めます。</p> <p>■郊外生活拠点 竜東地域の(主)伊那生田飯田線沿線に位置する東伊那支所、東伊那小学校周辺を東伊那地域の生活拠点と位置づけ、当地域に必要な都市機能の強化と維持を図ります。</p>
土地利用方針	<p>■山林・森林環境の保全 地域の大半を占める山林及び森林は、美しい森林景観と豊かな自然環境を形成しており、今後ともこれらの環境を保全します。</p> <p>■優良農地の保全 天竜川と河岸段丘に挟まれた一帯にある優良農地を保全します。</p> <p>■営農環境と居住環境の調和 地域内に点在する農村集落においては、営農環境と居住環境の保全と相互の調和を図ります。</p>
道路・交通整備の方針	<p>■幹線道路の機能強化 (主)伊那生田飯田線、(市)古田切線 当地域の南北方向を結ぶ幹線として(主)伊那生田飯田線、東西を結ぶ幹線として(市)古田切線があり、地域間を結ぶとともに観光拠点へのアクセス道路として機能強化を図ります。</p> <p>■主要生活道路の安全性確保 集落間を結ぶ主要生活道路や集落内の生活道路については、小学校周辺や住宅地を中心に歩行者の通行などに配慮した安全対策に努めます。</p> <p>■公共交通の利活用 当地域と市中心部がある竜西地域を天竜川が隔てています。このため特に高齢者など交通弱者の移動手段として重要な公共交通の維持に努めるとともに利用促進を進めます。</p>
公園・上下水道等整備方針	<p>■東伊那親水公園の適正な維持管理と利用促進 天竜川左岸に東伊那親水公園が整備され、当地域や周辺住民に親しまれています。さらに高台にはふるさとの丘が整備され、駒ヶ根市街地や中央アルプスの山々が一望できる眺望とスポーツに親しまれています。 今後とも官民協働による維持管理に努めるとともに有効活用します。</p> <p>■上下水道の適正な維持管理 上水道及び下水道(農業集落排水)ともに概整済みです。今後は、「駒ヶ根市水道ビジョン」「水循環・資源循環のみち2010」に基づき、安全、安心、安定した水の供給、上水道と下水道施設の計画的更新と適正な維持管理、施設の効率的な運営に努めます。</p>
都市防災の構築方針	<p>■土砂災害に対する安全性の確保 当地域の多くの集落は、山あいの扇状地形に形成されており、その多くが土石流による土砂災害警戒区域に指定されています。このため関係機関と連携を図り土砂災害に対する安全対策を進めます。</p> <p>■天竜川の氾濫対策 天竜川の沿岸部は氾濫による浸水想定区域が指定されており、氾濫防止のための河川対策、浸水対策を進めます。</p>



<拠点>	<土地利用>	<道路網>
郊外生活拠点	農地	国土幹線道路
観光拠点	森林	主要幹線道路
	水面・河川・水路	幹線道路
	宅地	補助幹線道路
	その他	
	原野等	

<地域別整備方針（東伊那地域）>

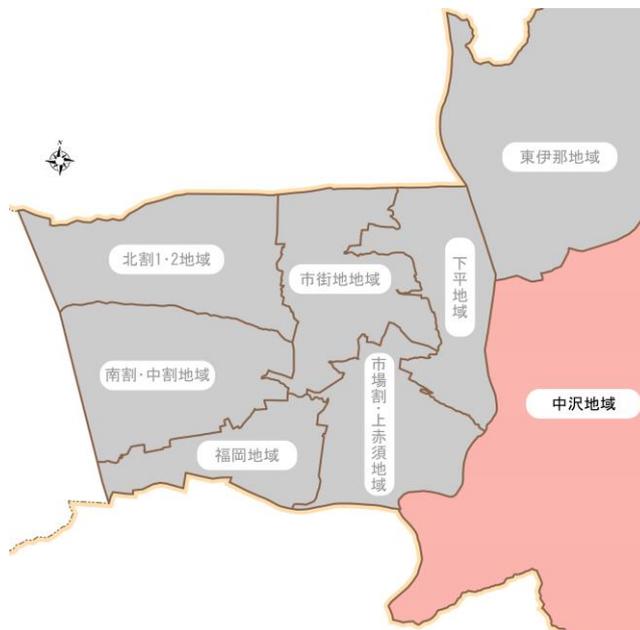
10. 中沢地域

10-1. 地域の現況と課題

当地域の大半は山林で、新宮川、百々目木川、下間川等の沢沿いに集落が形成されています。

人口はここ5年間で17%減少し、高齢化率も35%弱で、過疎化が最も進んでいる地域です。

土地利用は、大半が山林で、(主)駒ヶ根長谷線、(県)西伊那線沿線に集落が点在し、天竜川に近い傾斜地が地域の中心となっています。



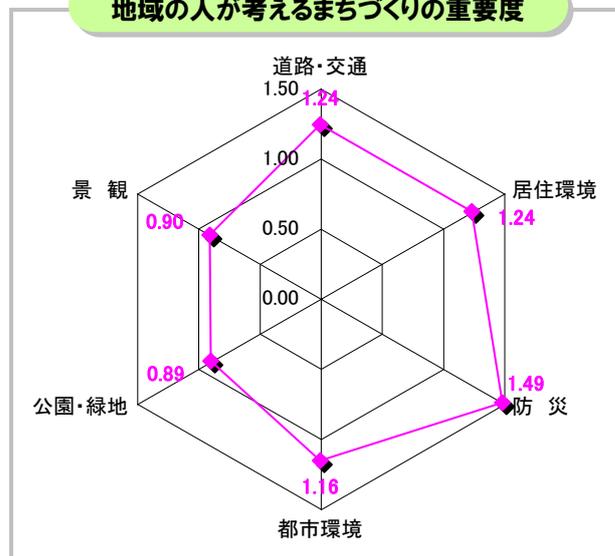
10-2. 地域の整備理念

緑豊かな森林環境の保全と谷あい集落の防災に配慮し、郊外生活拠点を中心とした高齢者にやさしい地域づくりを進めます。

天竜川を挟んだ竜東地域の緑豊かな森林・山林地域で、谷あいに農地や集落が点在しています。

本市の中心市街地から離れた地域で、地域の生活を支える都市機能を中沢支所周辺に確保・維持しながら、高齢者にもやさしい都市づくりを進めます。

地域の人が考えるまちづくりの重要度

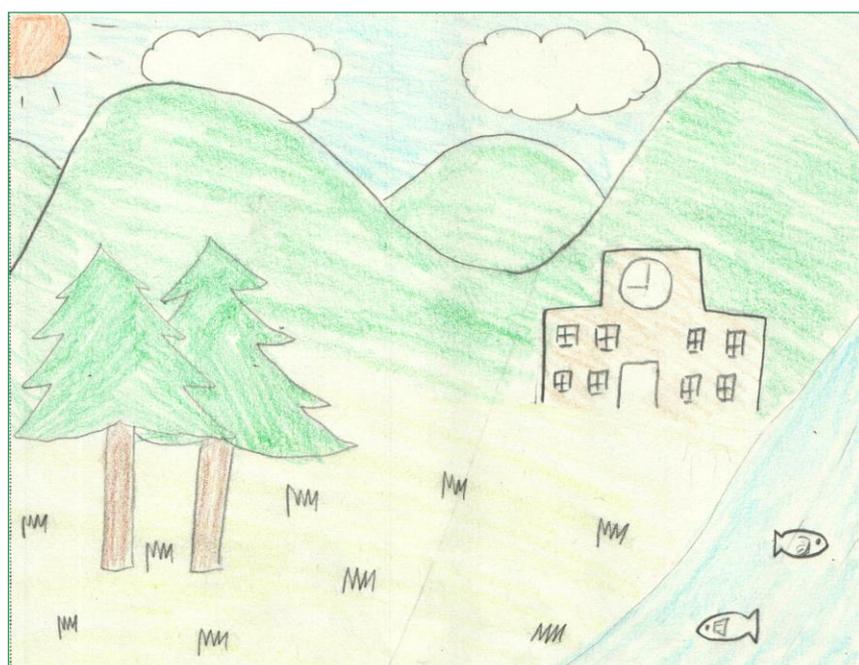


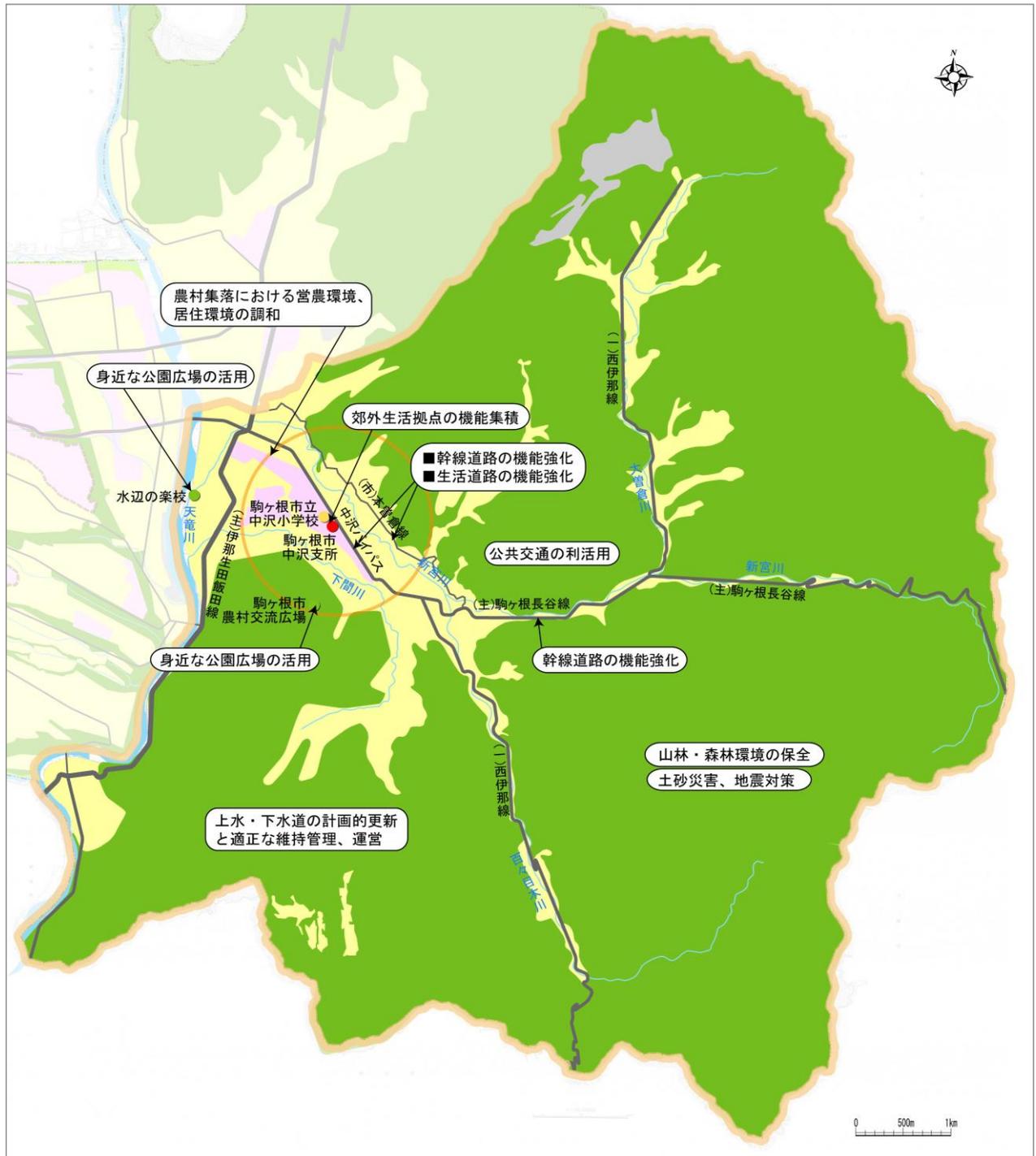
なお、当地域は都市計画区域外の地域ですが、ある一定の人口が集積している地区があり、過疎化や集約型都市構造の構築に基づくコンパクトな市街地の形成などの観点から、今後、都市計画区域についての検討が期待されます。

10-3. 地域整備の方針

地域整備の方針	
都市構造構築の方針	<p>■郊外生活拠点 竜東地域の(主)駒ヶ根長谷線沿線に位置する中沢支所、中沢小学校周辺を中沢地域の生活拠点と位置づけ、当地域に必要な都市機能の強化と維持を図ります。</p>
土地利用方針	<p>■山林・森林環境の保全 地域の大半を占める山林及び森林は、美しい森林景観と豊かな自然環境を形成しており、今後ともこれらの環境を保全します。</p> <p>■優良農地の保全 天竜川沿岸など地域内にある優良農地を保全します。</p> <p>■営農環境と居住環境の調和 地域内に点在する農村集落においては、営農環境と居住環境の保全と相互の調和を図ります。</p>
道路・交通整備の方針	<p>■幹線道路の機能強化 中沢バイパス (主)駒ヶ根長谷線、(主)伊那生田飯田線、(県)西伊那線は、東西及び南北を結ぶ幹線道路であるとともに谷あいの集落を結ぶ生活路線として機能しています。このため、(主)駒ヶ根長谷線中沢バイパスなどを整備し、交通処理や安全対策などの機能強化を図ります。</p> <p>■主要生活道路の機能強化 (市)本曾倉線 (市)本曾倉線は本曾倉及び中曾倉地区の主要生活道路です。また、新宮川の氾濫により交通が遮断されることを想定した避難路、物資輸送路としての役割も分担しており機能強化を図ります。このため小学校周辺や住宅地を中心に歩行者の通行などに配慮した安全対策に努めます。</p> <p>■公共交通の利活用 当地域と市中心部がある竜西地域を天竜川が隔てています。このため特に高齢者など交通弱者の移動手段として重要な公共交通の維持に努めるとともに利用促進を進めます。</p>

公園・上下水道等整備方針	<p>■身近な公園、広場の活用 当地区には、水辺の楽校、農村広場があり、官民が協働で維持管理に努めるとともに、気軽に利用できる公園として有効活用します。</p> <p>■上下水道の適正な維持管理 上水道及び下水道（農業集落排水、合併浄化槽（一部を除く））ともに概整済みです。今後は、「駒ヶ根市水道ビジョン」「水循環・資源循環のみち 2010」に基づき、安全、安心、安定した水の供給、上水道と下水道施設の計画的更新と適正な維持管理、施設の効率的な運営に努めます。</p>
都市防災の構築方針	<p>■土砂災害に対する安全性の確保 当地域の多くの集落は、山あいを縦貫する道路沿線に形成されており、土石流による土砂災害警戒区域に指定されています。このため、安全安心な生活環境を確保するため関係機関と連携を図り、土砂災害に対する安全対策を図ります。</p>





<拠点>	<土地利用>	<道路網>
郊外生活拠点	農地 森林 水面・河川・水路 宅地 その他 原野等	国土幹線道路 主要幹線道路 幹線道路 補助幹線道路

<地域別整備方針（中沢地域）>



